

番号	広場の名称
	親子のひろば「にこにこパーク」

広場運営実績報告書(2)

以下の事業内容について、**成果及び今後の課題等を具体的に記載してください。**

1 子育て親子の交流、集いの場の提供

①母親同士の情報交換や友達作りの場の提供

通常は多目的室と地域交流室をスライディングドアで仕切り、地域交流室部分は自由に親子で遊ぶスペースとして開放している。多目的室では子育てに関するイベント等の開催場所として使用するとともに、12時からランチタイムを設けてキッチンに開放して、親子やママ友たちの食事を通じた団欒の場所としている。

②子育てからの解放感

毎日の育児で疲れているママ達が多いのが現実である。産後に自分の体が回復するとひろばに来て、ヨガプログラムに参加して、リフレッシュを望むママ達が多い。広場に集まることでママ達のつながりができている。ひろばでママやパパ達でグループを作り、遊びに行く計画を立てひろば外でも楽しむ時間を過ごしている。

③アタッチメントタイムの提供

初めてママになる人にとって子育ては未知で不安がつきものである。当広場ではアタッチメントを育む方法の一つとして、ベビーマッサージやベビーヨガを導入している。アタッチメントとは「愛着」と訳することから、「かわいがること」と思いがちである。本来は赤ちゃんが発する不快感や不安感に対する応答的な対応により、赤ちゃんの危機を回避することで、信頼感を育むことである。そのことを実際に赤ちゃんに触れながらママ達が理解できるような時間を提供している。

2 子育てに関する相談、援助の実施

①各種イベントを利用した子育て相談

栄養士の資格を持つ現役ママスタッフによる離乳食試食会の開催。また栄養士や利用者でもある先輩ママたちを囲んで離乳食についてのおしゃべり会も開催した。おしゃべり会は気軽にしゃべりながら悩みを相談できる機会となっている。その他各種イベント開催時にも子育てに関した知恵や情報を提供した。

②ママ友には話せない相談事

当ひろばの地域はアパートやマンション等が多く、他の地域から引っ越して来て、知り合いの無いママ達が多い。そのためにママ友を作るためにひろばに来る人も多い。しかし、深刻な悩みはママ友には相談できないため、当方で実施している「家庭訪問型子育て支援ホームスタート」に申し込む人も増加してきている。特にひろばでは、二人目の妊娠中にホームスタートに頼る利用者の増加傾向がみられる。

3 地域の子育て関連情報の提供

①市内の子育てひろばや拠点と連携して協力して、おたよりや情報を交換し、利用者に広く周知されている。

また、イベント開催案内などは「にこにこパーク通信」やホームページ、掲示板を活用し案内している。そして、ひろば内においてもたくさんの方が自由に閲覧できるようにしている。

②泉区子育てネット

泉区では地域ごとに「子育て支援ネット」が組織されている。当方も「しらゆり地区」に属して地域の子育て支援機関と連携して、「地域の子育て力」の育成に努めている。公園あそびでは餅つきをしたり、伝統のあそびを伝えて、地域の人々と親子が触れ合う場所を提供している。

③施設長が各種子育て支援講座の講師を務め、全国的な子育て支援活動を行っている。

4 子育て及び子育て支援に関する講習の実施(実施回数も記載してください。)

各種子育て支援プログラムを定期的に実施した。

①アタッチメント・ベビーマッサージ(赤ちゃんの不安を受け止め、守られる喜びを感じて信頼関係を作る) 毎月2~4回 年間38回 延75組

②アタッチメント・ベビーヨガ(ママと体を動かして一緒に喜びを感じる) 毎月1~2回 年間23回 延73組

③ママのためのヨガ(ママが自分を癒す時間を提供) 毎月2~3回 年間26回 延61組

④ベーシックヨガ(主にシニア向け) 毎月1~2回 年間17回 延26組

⑤リトミック(専任講師) 毎月1回 年間12回 延59組

⑥離乳食試食会 毎月1回位 年間11回 延56組

⑦絵本の読み聞かせ会 毎月1回 年間10回 延65組

⑧親子響室(音楽会) 年間5回 延16組

⑨笑いヨガ 毎月1回位 年間11回 延35組

⑩おたのしみ会 延14組

⑪おもいっきりおしゃべり 年間1回 延6組 ⑫おもいっきりあそび 年間4回 延26組

⑬ママ友リフレッシュタイム 年間3回 延6組

⑭講演会『ことばの発達を応援しましょう』 延7組

⑮お姉さんとあそぼう 年間1回

5 地域の子育て関係者、関係機関・団体や行政機関等との連携について、取組の実績や課題を具体的に記載してください。

- ・泉区内の子ども虐待防止ネットワークのメンバーとして、乳児院施設長の立場並びに子育て支援の立場で泉区子ども家庭支援課や児童相談所と連携協力している。
- ・地域の見守りネットワークのメンバーとして、2か月に1回の頻度で開催する会合に、当施設の地域交流室を会場として提供し、関係機関と協力して地域の子育て中のママ(子育てサークル等)を支援している。
- ・乳児院に子どもを預けている保護者も「ひろば」を使って面会することで、社会復帰(自立支援)の練習になっている。
- ・家庭訪問型子育て支援ホームスタートのビジター(ボランティア)養成講座を開催し、地域住民にも子育て支援についての重要性を継続して啓発できた。

6 安全面での工夫や配慮について、取組の内容や課題を具体的に記載してください。

- ①転倒防止策としてひろば内では「裸足」になってもうため、床暖房を完備している。そして、はいはいやつかまり立ちの練習のできるように、子どもの行動に注意を払っている。
- ②常に複数の目が届くよう、人員配置を心掛けている。
- ③参加するママ達に、自分の子どもから目を離さないようお願いしている。場所を離れる必要性がある場合は、必ず、声掛けをお願いしている。
- ④乳児院の防災訓練にはひろばに来所しているママ達も参加してもらい、防災知識を広めている。
- ⑤ひろば利用者の子ども(預かりを含めて)の就寝時はプレスチェックを行いバイタルサインの把握に努める。
- ⑥すべてのスタッフは、救急対応の実技講習、事故発生時の対処方法を身に付ける実践的な研修を年に一度受け、資質向上に努めている。
- ⑦乳児と幼児が安心して過ごせるようエリアを分けて遊べるよう適宜工夫した。

7 広場利用者の声及び利用者からの声を踏まえ、改善の取組や工夫した点を具体的に記載してください。

- ①玄関とひろばスペースとの境界に何も無いため子どもが玄関に出て困るとの声が多くあったため玄関との境にキーロック付きスイングドアを設置。特に0～1歳児の保護者からは「安心してすごせる」と好評。
- ②当ひろばでは施設内のグラウンドが使用できるため、親子でおもいきり遊べる外遊びイベント「おもいきりあそぼう」を開催。砂場遊びあり・水遊びあり泥んこになるまで遊ぶ子もいた。『外遊びをしたいが、公園に遊びに行くと年齢の高い子どもに圧倒される』『まだやっと立てるくらいの子どもにも外遊びをさせたい』という思いを持つ保護者には大変人気があった。天候に左右されるため室内での「おもいきりあそぼう」も検討。
- ③一時預かりを利用してみたいが、ひとりでは不安なので友だちと利用してみたい。子どもに気にすることなくちょっと友だちとおしゃべりしたい。という声があり「ママ友リフレッシュ」イベントを用意した。3回開催し「とてもストレス解消になった」と感想もあった。とても意義があると感じたので、今後は回数を増やしたい。

8 事業全体の自己評価(実績や課題等を具体的に記載してください。)

当ひろばの平成30年度の新規利用者は155組となっている。
 参加の目的別には、①子どもの遊び場を求めて 130名 ②リフレッシュ 45名 ③イベント参加 35名 ④ママ友作り 34名 ⑤その他 0名 となっている。(複数回答あり)
 住所を調べると、当施設の近隣が 100名 少し離れたところで電車・バスを使用する人が 35名 戸塚区が 9名 その他が 11名となっている。
 ひろばを知った方法は①友だち 46名 ②ホームページ 30名 ③区役所や保健師 55名 ④当方の掲示板 12名 ⑤ちらし 14名 ⑥その他 10名 となっている(複数回答あり)
 子どもの数は一人っ子が143名で2人以上は12人にとどまっている。
 参加者の全体像を見ると、初めての子育てママが圧倒的である。そして、参加の理由は子どもの遊び場が多かった。以前よりイベント参加目的が減りリフレッシュ目的が増えた。ひろばを知った方法としては以前は友人が多かったが区役所等が増えてきた。関係機関との連携の重要性が感じられる。

9 その他、来年度取り組みたい内容、今後の展望など

社会福祉法人改革で社会福祉施設の社会貢献が義務付けられ、より一層の努力が求められている。社会福祉法人真生会白百合ベビーホームの地域支援事業として第2種社会福祉事業 親子のひろば「にこにこパーク」を開催して12年目になった。ひろばのイベントでも幅広く、地域住民にも参加してもらい、世代間交流を図っていききたい。
 乳児院や母子生活支援施設での妊娠から出産後の子育て支援を始めとして、地域住民の安心の場となれるよう努めたい。
 パパやママも祖父母も家族と一緒に参加できるイベントとして、「笑いヨガ」の普及に努める。笑いの体操とヨガの呼吸法を合わせた誰でもできる笑いの健康法で、家族のメンタルヘルスを維持できる機会になれば嬉しい。
 また、離乳食試食会を通して、ママ達の食に対する悩みや相談が多いと感じた。今年度は、気軽に栄養相談ができるよう「おもいきりおしゃべり」を計画した。この開催は、栄養士を中心としてその時来所している親子で『食』をテーマにおしゃべりするスタイル。子どもはスタッフが見守り保育でママたちは話に集中できた様子だった。来年度は 複数回開催し、更に工夫したい。
 年に一回のおたのしみ会は多くの利用者さんが毎年楽しみにしているので、プログラム内容も工夫して親子で楽しめるイベントにしたい。縁日も毎年定着して、地域交流の場となってきたので、開催内容を検討していきたい。
 対応が難しい利用者であっても、非難したり、指導するのではなく、利用者の思いを受け止めて耳を傾けて利用者を理解し信頼関係を築けるよう努めたい。
 今後はよりママやパパに寄り添ったイベントの企画をしていきたい。